将来を見据えた街づくり、人づくり

十和田市の史跡を巡り

会　長　益 川　百合子

９月19日、大雨の後の史跡めぐりに当たり少々心配致しました。

昨年は、新渡戸記念館をはじめ洞内の法蓮寺や駒っこランド、称徳館と主に北側をガイドして戴き、十和田の先人を偲びましたが、今年は「中渡八幡宮」を中心に約10ヵ所余りを巡って参りました。

「中渡八幡宮」は、市街地より南南東約10kmの所にあり、建久二年（1191年）南部先行が糠部五郎の領主となって三戸に移ってきた時、対馬平次郎景満に命じて氏神である八幡宮を甲州（現在の山梨県）から滝沢に移動させました。それが「中渡八幡宮」です。景満は、八幡宮の神主となり、その子孫も代々祭主を務め、滝沢村と下吉田（六戸町）三百石を知行したと言われています。貞応元年（1222年）、藩主の命により櫛引村（八戸市）に分宮され、それが現在の「櫛引八幡宮」だそうです。

「中渡八幡宮」は、南部一之宮櫛引八幡宮の元宮八幡宮と言われ、終戦の年まで毎年９月15日には例祭を催し、県下角力大会が開催されていました。近郷からの参詣人も多く、夜は「ナニャドヤラ」等で盛況の様でした。境内には、旧四和村の招魂碑も建立されており、神社建立の頃に植えられた樹齢500年以上の古木が残されておりました。10年前には、新皇居「松の間」造営にも献木され、お国のために役立った様でございます。

杉の木地区に現存する「いちょうの木」は、樹齢500年、樹高30m、根元の周囲は12mと大木で昔から「いちょうの木」の神様として信仰の対象となっていた様です。昭和55年には市の天然記念物に指定されました。

次は切田地区にある樹齢推定300年の「赤松」で、

切田地区の樹齢推定300年の赤松の前で

近くには「桂」の大木もあります。この辺りは、月日山を通って十和田神社へ行く通り道で、加賀の国からの落人によって開かれた村です。「赤松」は昭和53年11月に市指定樹木に指定され、現在も見事な姿をしておりました。

次は平山の「板碑」です。平山の十字路を南に50m程歩いた所に小さな建物があり、その中に「板碑」が保存されていました。「板碑」とは、今から600年位前の南北朝時代、極楽浄土へ導いてくれる阿弥陀信仰が盛んだった頃、根城南部氏に関した豪族か高僧又は、修験者が建立したであろうと言われ、山岳信仰に深い関わりを持つ「板碑」でもあるそうです。「板碑」には、上半分に梵字が３つ刻まれています。この梵字は、インドの古代文字で仏教と共に中国から日本に渡ってきたもので、中央に「キリーク（阿弥陀如来）」、右に「サク（勢至菩薩）」、左には「サ（観世音菩薩）」と阿弥陀三尊が彫られていました。

私は十和田の先人達の苦労を偲び、現在ある十和田市は、先人達の苦労と勤勉によって培われ、今があると思っております。目先のことばかりではなく、将来を見すえた街づくり、人づくりが大切な時代なのではないでしょうか。

ボランティアガイドの方々には色々とご苦労もある様で、これからもどうぞ頑張ってほしいと思います。そして、若い人達も十和田の史跡を一寸でも良いからのぞいてみては如何でしょうか。

'07 暖房機 ガス機器 フェア
とき 10月6日(土)・7日(日)
10/6 午前10時～午後６時
10/7 午前10時～午後５時
ところ 十和田商工会館
（1Ｆ・大ホール）
TOWADA GAS
主催：十和田ガスグループ
＊十和田ガス㈱＊十和田エルピーガス㈱＊田中燃料店
＊オキタ石油ガス㈱＊岩城ガス＊今泉プロパン
＊㈲森田商会＊十和田ガス六戸㈺＊十和田ガス七戸㈺